

令和3年度

学校評価

自己評価

及び

学校関係者評価

学校教育目標

未来にかがやく！あおいっ子

令和4年2月

浜松市立葵が丘小学校

I 「知」 確かな学力を育む

1. 今年度の取り組みとその考察

(1) 授業規律

「授業規律」として学習に向かうルール、心構え12項目を全学級で統一して掲げ、達成に向かうよう一丸となって努力した。また、その中で特に指導が必要であるとされる項目については、「学習規律五か条」として教室掲示し、毎授業のたびに教師、児童同士が確認し、授業に向かうようにした。毎学期末には、各学級で振り返り、以下の評価をした。

80%以上達成◎ 50～79%達成○ 49%以下△

《2学期集計結果より》（「学習規律五か条」抜粋）

・机には必要なものだけ出しておく。	◎92%	○8%	△0%
・予定をしっかりと書かせている。	◎70%	○30%	△0%
・2分前着席させている	◎54%	○16%	△30%
・立腰で話を聞かせている。	◎23%	○62%	△15%
・ノートは正面に置き、手を添えて正しく鉛筆を持って書かせている。	◎23%	○77%	△0%
・習った漢字を使い、丁寧に書かせている。	◎0%	○77%	△23%

考察

- 授業では、必要なものだけを机に出し、集中して取り組めるようになった。
- 話す人の方を見て話を聞く習慣は身に付いていて、自然と体を向けることができるようになった。
- 予定をしっかりと書き、忘れ物をしないようにする意識が高まった。
- △ 聞く、話す姿勢が崩れるてしまうことが多い。立腰を意識させたい。
- △ 昨年度同様、習った漢字を使い、丁寧に書くことが徹底されず、学んだことが生活に生かされない。

(2) 校内研修

これからの時代が要請する国の教育施策、浜松市教育総合計画におけるビジョン等を踏まえ、新学習指導要領の理念を本校の子供達の実態に合わせ、進むべき授業の方向性を模索する校内研修を行った。研修テーマを「確かな力を基に主体的に学び合う子を目指して～振り返る つなげる 生かす～」と定め、目標達成のため2つの柱を視点として授業改善に努めた。全員が一回の公開授業を行った。学年団で事前研修、参観、事後研修を行い授業技術の向上を図った。

視点1 単元構成による深い学びの実現

- ・ 各教科・領域の特性を生かした見方・考え方を働かせるように単元を構成する。
- ・ 主体的に課題や問いを発見させるための導入を工夫する。
- ・ 習得した知識・技能を生かして課題を解決し、次の学習につなげられる学びの仕掛けをする。

考察 研修の取り組み（研修アンケートより）

- 既習事項を生かして次の課題を解決する流れの単元構成だったので、見通しをもって課題解決に取り組むことができた。

- 学年や全体で研修に取り組み、単元構成の仕方を考える中で、「深い学びとは」を追求できた。
- 「つながり」というキーワードを児童たちに伝えることで、児童からもつながりを意識した考えが聞かれるようになった。
- 時間数の比重の大きい単元について、分かりやすい授業、子供が考える授業を目指し取り組むことができた。子供の意欲的な取り組み、既習事項を生かした考察など良い表れが見られ、効果的だった。
- △ 深い学びには焦点をあてられていたが、単元構成の工夫には難しさを感じた。
- △ 子供が課題を解決していけるような単元構成の工夫に取り組んだが、教科によって差があったので、さらに広げていきたい。

視点2 自分を見つめる力を高めるキャリア単元シートによる振り返り

- ・ 自分が、どのようにどの程度学びに関わったのかを振り返るシートを作成し、授業における指導や評価に生かす。
- ・ 学んだことを自分の言葉で表し、他者との関わりにより変容した自己の成長を自覚するための振り返りをさせる。
- ・ 振り返りを行うことで学びが他教科や実生活、実社会、自分の未来などにつながっていることを意識した振り返りを書かせる。

考察 研修の取り組み（研修アンケートより）

- 振り返りを書かせることで、押さえるべきことを強調して確認したり、児童の実態を次時の授業改善に生かすことができた。
- キャリア単元シートを繰り返し書かせることで、書くことに慣れ、自分を振り返ってどんな力が付いたのかを表現することができるようになった。
- キャリア単元シートは、子供の学習意欲の継続に大変効果があった。特に、単元のゴールが意識できたことがよかった。
- △ 低学年では、書くことが分らず時間がかかってしまう子、振り返りに苦手意識をもってしまった子がいたことが反省点だった。
- △ 単元シートの振り返りを書く時間を、授業内に組み込むようにするのが難しい。分かったことだけを書く児童もいて、つながりや深まりがあまり書けていなかった

(3) 県定着度調査（校内）の結果

県定着度調査

令和4年1月11日

対象：全学年

国語

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平均点	88.8	80.5	75.8	71.2	72.4	52.9

算数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平均点	94.5	83.8	81.8	64.4	67.4	67.7

考察

- ・ 国語でも算数でも、問題文をじっくり読まずにすぐに答えようとして間違えてしまう傾向がみられる。
- ・ 漢字やローマ字を書くこと文章を正しく書き抜くことが苦手である。細部の間違いが多く、正確に習得できていなかったり、正確さに書けたりしたので、漢字は書き取りやドリル学習で確実に定着を図っていききたい。また、文章を書くときには習った漢字を使うことを一層意識するように指導していききたい。
- ・ 算数の計算問題は比較的よくできていた。しかし、正答率には個人差を大きく見られた。繰り返し、練習問題に取り組みせ、基礎的な内容の定着を図っていききたい。
- ・ これらの結果から、今後の授業の在り方、家庭学習への取り組み方を工夫していく必要がある。

(4) 『確かな学力育成プラン』に関わる学校評価アンケート(12月実施)の結果

A(よくできている) B(できている) C(あまりできていない) D(できていない) E(わからない)の5段階評価で、AまたはBと答えた人の割合。

Q7 学習習慣が身に付き、勉強するときの約束を守ることができたか。

児童 87.9% 保護者 68.8% 教員 71.9%

Q8 基礎的・基本的な学習内容が定着したか。

児童 87.9% 保護者 75.2% 教員 43.3%

Q9 主体的に学習に取り組むことができたか。

児童 85.3% 保護者 66.1% 教員 68.7%

考察

- ・ 「学習習慣が身に付き、勉強するときの約束を守ることができたか。」については、児童の評価は高いが、保護者の評価が低い。家庭と協力をして、子供を励まし、勉強するときの姿勢や心構えを身に付けさせる必要がある。
- ・ 「基礎的・基本的な学習内容が定着したか。」については、教員の評価が低い。習った漢字を使って文章を書くことを意識させたり、繰り返し練習を根気強く行わせたりすることが必要である。
- ・ 「主体的に学習に取り組むことができたか。」については、保護者や教師の評価が低かった。家庭学習の内容や方法を工夫したり、子供が主体的に学習に向かうように授業研究を丁寧に行う必要がある。

2. 来年度の取り組みと改善点

<校内研修で>

- ・ 目的意識をもって取り組めるような授業の仕掛けをする。
- ・ タブレット等のICT機器を効果的に活用する。
- ・ 学びの意欲化につながる振り返りをさせる。

<授業・日々の活動の中で>

- ・ 読書の推進を図る。
- ・ 漢字の力が定着するような継続した取り組みをする。

- ・ 本読み指導、語彙、言葉の意味を考えさせることを繰り返し行う。
- ・ 自分の考えを記述する学習時間を確保し、交流ができるようであれば、その考えをもとに話し合わせる活動を取り入れる。
- ・ ICT機器を取り入れた学習活動を取り入れていく。
- ・ 家庭学習の手引きを活用したり、家庭学習の内容を工夫したりして、家庭学習を充実させる。

■学校関係者評価

- ・ 静岡県学力調査結果では、学年が上がるにつれて、正答率が下がっている。単純な問題だけでなく、じっくり読むような取り組みが必要である。
- ・ 読解の力がないと、国語だけでなく、算数も難しくなる。最近の社会では、テレビでもゲームでも、目に映り瞬間的に捉えたり答えたりすることが日常的に多い。じっくりと考えさせる工夫をしなければいけない。

Ⅱ 「徳」 夢や希望を育む

1. 今年度の取り組みとその考察

(1) 「葵っ子宣言を意識した教育活動

グランドデザインにも組み込まれている、児童の行動の指針となる「葵っ子宣言」を意識させ、児童の意欲を高め、教育目標へつながる行動を促した。

葵っ子宣言

- 誰とでも心のこもったあいさつをします
- 人への思いやり、ゆずり合い、助け合いの気持ちを大切にします
- 強い心を持ち、どんなことにも全力で取り組みます

① 朝の挨拶運動の推進

- ・ 誰とでも明るく朝の挨拶を交わし、良い気持ちで学校生活がスタートできるように、企画委員会を中心にあいさつ通りに立ち、毎朝、登校してくる児童に挨拶をした。また、全校にも活動を広げ、学級ごとに挨拶運動に参加した。

② 生活全体での挨拶を意識化

- ・ 学期の始めの生活めあてでは挨拶を推進するものとし、毎日振り返りを行い、意識化を図った。
- ・ 職員から率先して、児童への挨拶を行った。

③ 「葵っ子宣言」を絡めためあての設定

- ・ 児童一人一人の目標を、挨拶、思いやり、全力の項目にし、めあてを考えさせる。
- ・ 行事の際には、企画委員会のキャラクターが寸劇を行い、「葵っ子宣言」を意識させ、目標を持って取り組むように計画した。

④ 「葵っ子宣言」を有言実行した児童の賞揚

- ・ 企画委員会が中心となり実施。全校の児童に、有言実行した児童を見つけたらカードに書いてもらい、掲示したり放送で賞揚したりした。

⑤ 「葵っ子宣言」に関わる学校評価アンケート

(A B C Dの4段階評価で、AまたはBと答えた人の割合)

Q 4 誰とでも明るく心のこもった挨拶ができたか。

児童	85.7% (2.5%↑)
保護者	78.7% (3.0%↑)
教職員	71.8% (8.8%↑)

Q 3 自分や周りの人を大切にすることができたか。

児童	91.7% (0.1%↓)
保護者	94.5% (1.0%↑)
教職員	93.7% (1.1%↑)

Q 5 思いやり・助け合い・ゆずり合いの気持ちを持って人に接することができたか。

児童	90.9% (2.5%↑)
保護者	92.3% (3.4%↑)
教職員	84.4% (4.5%↓)

Q6 強い心を持ち、どんなことにも全力で取り組むことが出来たか。

児童	88.1% (5.1%↑)
保護者	81.8% (3.9%↑)
教職員	71.9% (13.3%↓)

「葵っ子宣言」についての学校評価に関するアンケートについて、挨拶に関する項目では、8割以上できていると答える児童、保護者に対して、教職員は昨年度に比べて1割弱高く7割程度できていると答えている。子供たちは、挨拶に対して意識を高め、本人なりに努力しようとしていると考えられる。相手に伝わる挨拶の仕方や挨拶がお互いに良い気持ちにさせることなどをこれからも伝えていくことが必要であると思う。

思いやりに関する項目では、児童、保護者の評価は9割を超えていた。学校生活に置いて、一人一人はみんな違ってみんないいと感じ、誰に対しても仲間として接している葵が丘小学校の特性を表していると感じる。反面、教職員は昨年度より4.5%評価が下がった。これは、児童の言動による問題行動が目立ったことによるものだと考えられる。学校生活を安心して送ることができるよう、これからも力を入れて取り組んでいきたい。

全力で取り組む項目については、教師の評価が大きく下がっている。今年度も、コロナウイルス対応のため、昨年度にできなかった活動を行ったことがあった。出来ることに精一杯取り組んだと児童、保護者は評価している。しかし、教師の評価が低いのは、学習や運動など苦手なものに対して児童が「やりたくない。」と見学・欠席するなどして参加しないことが一因であると思う。認め励ましていく中で、児童に達成感を味わわせる支援が大切であると考ええる。

高学年児童が、できる活動を考え委員会活動で取り組んだり、困っている下学年に声を掛けたりする姿が多く見られた。下学年児童は、高学年の児童を手本とし、学校生活の仕方や善い行動について学ぶ。本年度も、異学年の交流を目にする機会が少なかったことは残念である。新しい生活様式の中で、方法を模索していく必要がある。

(2) いじめ予防の取り組みと いじめ予防教育

① 各種アンケート等による児童の実態把握

- ・ 「アセス」アンケートを3～6年生に年2回実施した。各アンケートの学級の実態に応じた手立てを講じた。
- ・ 児童の悩みや児童間の人間関係を把握するため、「ほのぼのアンケート」(いじめアンケートを毎学期実施した。

(各種アンケートより)

学校は楽しいか … 92.2% (390/423人)

いじめられて困っている人を知っている … 5.0% (22/423人)

- ・ 月の終わりに月の欠席の多い児童、いじめ、共通理解が必要な児童に関する児童実態調査を行った。

市教委へのいじめ報告件数 … 5件

30日以上欠席している子 … 9人

②いじめ対応

- ・ アンケートや訴えなどにより、いじめの相談を受けたり、子供がいじめられていると思われたりするときは、早期に事実確認を行い、いじめが確認された場合には、教育委員会に報告した。いじめが確認された場合は、学校全体で対応できるように組織化を図り、いじめをやめさせ、いじめを受けた児童には安心できるよう配慮し、再発防止に努めた。いじめを受けた子供とその保護者に対する支援、いじめを行った子供とその保護者に対する指導、助言を継続的に行った。

③いじめ予防意識を高める

- ・ ピア・タイムの実施

月に1回ピア・サポートについて学んだり安心できる学級を作ったり、よりよい人間関係を築くためのスキルを身に付けたりする活動を行った。

5月	ひたすらじゃんけん
6月	ほめほめじゃんけん
7月	同じところ探し、ほめほめじゃんけん
9月	聞き方レッスン
10月	ないしょの友達
11月	たし算トーク
1月	聞き方レッスン
2月	ありがとうリレー

- ・ 企画委員会「見守り隊」の設置
「葵っ子宣言」の思いやりとつなげ、毎週水曜日の昼休みに、企画委員会の児童が「見守り隊」として校内を回った。挨拶をしたり困っている児童に声を掛けたりもめ事の仲裁などを行った。
- ・ 各学級にピア係の設置
学級係が、ピア係を兼任し、困ったことの手助けをしたり友達の相談を受けたりした。

児童理解については、実態調査を実施することで、児童の抱えている課題を見つけ、指導・支援に役立てることができた。集計結果を分析することで、学級の様子を把握し、学級経営に生かし、居場所のある学校作りに努力した。また、児童の問題や不安・疑問に対して、保護者と職員が密接に連携をし、学校体制で迅速に対応できるように努めた。不登校については、要因をつかみ、安心して登校できる学級づくりを行ったり、家庭に働きかけて連携を図ったりした。コロナウィルスの影響もあり、解消に至るには難しかったり時間を要したりする問題と考えられる。今後も、相談しながら、1つ1つの案件に対し、連携を取りながら、対応していく必要がある。

学年、学級においては、個別支援を必要とする児童が増え、学校体制で支援をした。本人や保護者への支援や相談活動を充実させたり、スクールカウンセラーや医療機関等との連携を深めたりするようにした。

いじめ予防の取り組みとしては、月1回のピア・タイムを設け、自分を認めてもらえる温かい学級作りと相手が話したいと思える聞き方のレッスンを行った。子供

たちは、この時間を楽しみにし、人との関わり方を学ぶことができた。ただし、短時間の活動だけでは、実際に身に付き、日常の関わり合いで生かされているというのは現状では難しいと考えられる。ピア・サポートの考え方を日常的に意識させ、周囲の人との温かい関わり方を身に付けることと共に、周囲の人と関わりたいと感じ、助け合える学校生活が送れるような指導は今後も必要である。

(3) 縦割り活動（あおい活動）を通したリーダーの育成

- ・ 縦割りグループを編成して、週2回の清掃活動を行った。「黙働清掃」を目標に掲げ、6年生のリーダーを中心に落ち着いて清掃に取り組んだ。また、縦割りグループで縦割り遊びをし、関わり合いを持たせた。

縦割り活動では、コロナウイルスの影響により、実際に接する縦割り活動は、清掃活動と数回の葵遊びとなった。しかしながら、6年生がよい手本となりグループで活動したり、低学年の子に優しく接したりする姿が見られた。その行動は、下学年の児童にも伝わり、お互いに認め合い、助け合う関係を築くことができた。

(4) 保護者や地域と共に

- ・ 配慮を必要とする児童について、主任児童委員や地域の方との報告会を設け、共通理解を図った。また、月に2回程度カウンセリングを行い、子供だけでなく、保護者の育児に対する悩みや相談を受けた。必要に応じて社会福祉課や児童相談所等に報告し、指導・支援を受けた。
- ・ 学校便り「はばたき」を通じて、学校の取り組みを保護者や地域に伝えた。

2. 「『徳』夢や希望を育む」に関わる 学校評価アンケート

(A B C Dの4段階評価で、AまたはBと答えた人の割合)

Q10 学校での学習は、自分の生活や将来との関連が図られていたか。

児童	88.1%
保護者	67.0%
教職員	81.3%

Q11 学校行事や特別活動は自主自立が育つように行われていたか。

児童	88.9%
保護者	84.0%
教職員	93.8%

Q12 他の学年の人と交流し、思いやりや助け合いの心が育ったか。

児童	81.4%
保護者	81.3%
教職員	84.4%

児童保護者と教職員の評価の差が大きく見られたものがあった。Q10に関しては、保護者との差が13%もあり、昨年度よりも差は半分になったが、まだ認識の違いが大きい。今年度、学校では、キャリア教育を推進し、学んだことや学び方を、自分の生活や将来と意識付ける取り組みを行ってきた。しかし、保護者への啓発がまだ足りなかったと考えられる。Q12については、昨年度は教職員が約20%低くなっていたが、今年度は逆に3%高くなっている。コロナウイルス対応の中、学校行事や様々な活動を工夫して実施することができたからと思われる。また、児童や保護者は、日常の生活の中で、休み時間や登下校などに自然と異学年児童と関わ

り合いを持ち、下学年児童には優しく接することができていたと考えられる。当たり前に、困っている人を助け思いやりを持つ子供たちを嬉しく思いつつ、新しい生活様式の中での、活動の工夫が必要である。

4 来年度の取り組みと改善点

- 「葵っ子宣言」について理解を深める機会を持つ。
 - ・ 「葵っ子宣言」については、創立50周年に作られてから、受け継がれてきている。分かりやすい言葉で子供たちに浸透しているが、年度初めに確認し、意識を高めて行く必要がある。また、1年生には、6年生から伝えてもらうことで、葵っ子としてがんばろうという意識を持てると考える。
- 朝だけではなく、日々の生活での「挨拶」の呼び掛け
 - ・ 教師が率先して挨拶するのはもちろんのこと、挨拶することが普通だという雰囲気を出して学校全体で持たせる。また、挨拶の仕方について、元気な挨拶だけでなく、会釈など時と場に応じた挨拶を、「相手に伝える」気持ちで行うことを、生徒指導を通じて、全校理解する。
 - ・ 企画委員会を中心に全校に働きかけ、校内での挨拶を活性化させるための手立てを考えさせる。
- ピア・サポート活動による安心できる学校作りの推進
 - ・ サポーター（講師、大学生等）を呼んだ学習やピア・タイムは、人間関係づくり、問題解決スキルを身につけさせるのに有効であるため継続する。
 - ・ 見守り隊、ピア係を継続し、安心できる学校作りを行う。
- 新しい生活様式に応じた特別活動や異学年交流によるリーダーの育成
 - ・ 高学年児童による委員会活動や交流活動の仕方の工夫をし、リーダー性を育て、一人一人が自覚を持って学校生活を送れるようにする。

■学校関係者評価

- ・ 現在では、異学年交流をすることが、日常の中に非常に少なくなっている。異学年交流をすると、上学年、下学年のどちらの子供も人間関係のルールや社会性など学ぶことが多い。多くの機会を与えてほしい。
- ・ 学校に来られない子供たちの家庭環境を把握し、家庭での様子にも気を配る必要がある。
- ・ 家庭環境により、身近の自立や人との関わり方、様々な体験の経験値が違い、二極化している。学校に求められるものが大きいですが、地域と協力し、子供を育てていく。

Ⅲ 「体」健康・安全を育む

1 今年度の取り組み

◎ 運動能力を高めるための取り組み

(1) 体育科授業

○ 楽しい体育科授業の実施

体育科の授業を通して、「友達とかかわる楽しさ」「できる楽しさ」「分かる楽しさ」「考える楽しさ」「共に支え合う楽しさ」「見る楽しさ」などを味わうことができるようにする。また、自分の課題を見付け、課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者へ伝える力を高めるために以下の項目を重点として体育科授業を行った。

【重点項目】

- ・ 目当てに向かって学習し、振り返りをする。
- ・ 自分の課題を掴むことできるようにタブレットPCを活用して自分の動きを視覚的に捉える。
- ・ 課題解決の仕方、練習の場や段階などを理解できるように技の分解図やデジタル教科書を活用する。
- ・ 主運動や安全指導につながる、感覚づくり・動きづくりのセット運動を行う。
- ・ 子供が「どのように学ぶか」という視点を持つことができるように、単元を構想する。



(2) 体育的行事

○ 校内運動会の実施

新型コロナウイルス感染症防止のため、学年団で実施した。子供たちの健康・安全を第一に考えながら、子供たちを中心に据えた行事にするために以下のことに留意した。

- ① リレー大会を教科内での実施とし、運動会での種目は各学年3つにして、短時間での開催とした。
- ② 種目の内容は、接触する競技は避けるが、それに替わるものを用意した。
- ③ 開閉会式を各学年団で行い、活躍の場を増した。
- ④ 子供たち同士で演技を見合う場を設けるために、運動会のミニ発表会を実施した。
- ⑤ 保護者も安心して見られるように入場制限及び観客席を分けし、指定席とした。



(3) 体育活動

○ 葵チャレンジ・持久走記録測定

走ることに加え、エアロビクス（有酸素運動）の練習場所を設け、継続して練習に取り組んだ。苦手な児童も楽しく体力づくりに取り組むことができた。

目標を持ち、取り組み続けられるよう記録測定は、体育科の時間に各学級で3回の測定を行った。



○ 学年リレー大会

運動会で実施できなかった「学級対抗リレー」と体力アップコンテストの種目でもある「みんなでリレー」に取り組んだ。学級一丸となって練習に取り組み、体力を高めることができた



○ 発達支援学級での自立活動

発達支援学級では、1時間目に「スタートタイム」を位置付け、「自分の体を知る」「心の安定を図る」「友達と一緒に楽しく体を動かす」などの目的をもって毎日、長縄運動等を行ってきた。



◎ 保健指導（保健室からの働きかけ）

1 朝のミニ保健指導

今年度も毎月1回、養護教諭が自作したプレゼン資料を使って各教室で担任が各学年の発達段階に合わせてミニ保健指導を行った。



2 学校保健週間を中心とした取組

開成中学校区共通のテーマ「心の健康」について、3年計画の3年目である今年度は、コロナ禍の子供たちにストレスと上手につき合う方法を考えさせた。学級活動や学校保健委員会（静岡大学赤田信一先生の講話）・保健委員会の児童が企画した保健イベント等をと通して、児童一人一人が自分の心と向き合うための活動を行った。



◎ 食育指導

1 給食時または朝活動の時間での指導

コロナ対応で、給食時間に行っていた食育指導（1年生：給食時マナー指導、3年生：地場産物について等）を一部朝読書の時間に行った。給食時間でないと指導しづらい内容もあるが、8時からの10分間に行うことで集中して話を聞くことができた。

2 TT 授業

6年生の家庭科（炒めて作ろう朝食のおかず）や、2年生の学活（やさいを食べて元気になろう）等、調理実習以外の授業にも参画した。

3 給食委員会の活動

地産地消をテーマに地場産物を使用した簡単なレシピの考案・調理をし、あおいだよりでレシピの紹介を行った。また、SDGsと絡めて地産地消の大切さをパワーポイントでまとめ、発表した。どちらも児童が主体となって活動を行うことができた。

◎ 安全指導

1 防災・安全指導への取組

○ 年間3回の避難訓練を利用して、安全な避難の仕方を身に付けた。

- ・ 1学期・・・避難訓練を実施して避難経路を確認する。
- ・ 2学期・・・避難訓練を実施して、防災意識を高める。
- ・ 3学期・・・予告なしの訓練をして自主的に避難する。

○ 年度始めに、交通安全指導・防犯指導を行い、自分で自分の身の安全を守る意識をもたせた。



- 校内で起きたことを生徒指導委員会の折に全職員で共通理解し、問題解決のために各担任が発達段階に合った内容で子供たちに指導した。
- 6年生が委員会活動で、自主的に校内の安全を守るための対策を考え、実践した。（「見守り隊」による校内巡視・運動委員会による運動場の環境整備）

2 新型コロナウイルス感染症対策としての取組

- 登校直後の手洗いを励行
- 朝の健康観察時、担任による非接触型体温計での検温
- オートディスペンサーによるこまめな消毒
- 常時、マスクやフェイスシールドによる飛沫感染予防
- 机の並べ方、集合の仕方、給食の食べ方にソーシャルディスタンスを引き続き考慮し、対応した。
- ICTを活用し、情報を共有したり関わり合ったりする場面を補ってきた。
- 全校の水道の蛇口をレバー方式に変え、なるべく接触を防ぐよう改善した。



2 各種調査の結果と考察

○ 新体力テスト

- 緑色は、全国平均を下回っている項目
- 赤色は、浜松市の記録が全国平均を下回っている項目
- 浜松市、全国の平均記録は令和元年度のもの

【小学校男子】		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトル ラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール 投げ(m)
1年	浜松市	9.56	11.95	25.66	28.36	21.29	11.41	116.50	8.72
	全国	9.44	12.06	25.85	27.95	18.63	11.40	115.37	8.47
	葵が丘	9.69	11.81	24.48	26.00	13.83	11.79	111.21	8.10
2年	浜松市	11.29	14.57	27.80	32.01	29.01	10.69	127.85	11.69
	全国	11.18	14.69	27.68	32.54	29.84	10.55	127.38	12.36
	葵が丘	12.64	14.18	26.05	30.00	27.26	10.46	124.46	10.59
3年	浜松市	13.07	16.43	29.74	35.49	36.21	10.14	136.06	15.26
	全国	12.80	16.68	30.07	36.10	39.57	10.00	137.76	16.01
	葵が丘	14.48	14.60	32.03	35.03	33.97	10.27	139.13	14.35
4年	浜松市	14.92	18.35	31.55	39.62	44.47	9.68	145.58	18.24
	全国	14.64	18.52	31.08	39.95	47.03	9.61	145.84	19.84
	葵が丘	15.69	16.38	28.31	38.00	36.79	10.00	145.10	15.62
5年	浜松市	17.02	20.31	34.19	43.61	51.56	9.37	154.03	21.51
	全国	16.60	20.61	33.78	44.01	56.90	9.17	155.10	23.72
	葵が丘	19.23	18.55	31.13	45.00	50.77	9.10	153.48	21.55
6年	浜松市	20.30	21.99	36.77	45.95	59.79	8.89	166.58	24.76
	全国	19.70	22.98	35.49	47.02	65.49	8.78	167.08	27.86
	葵が丘	21.29	20.26	38.29	42.97	43.88	9.16	155.29	22.06

【小学校女子】		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20mシャトル ラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール 投げ(m)
1年	浜松市	9.14	11.85	28.47	27.51	18.02	11.73	110.37	5.99
	全国	8.75	11.47	28.41	26.83	16.16	11.72	109.07	5.81
	葵が丘	9.39	11.35	25.90	26.26	14.52	11.65	111.74	5.45
2年	浜松市	10.57	13.85	30.85	30.80	22.97	11.04	120.03	7.83
	全国	10.44	13.77	30.78	31.05	23.07	10.90	118.66	7.59
	葵が丘	12.31	15.35	29.00	29.74	21.18	10.93	119.18	7.20
3年	浜松市	12.34	15.46	33.38	34.27	27.58	10.47	128.97	9.79
	全国	12.07	15.76	32.75	34.62	30.41	10.34	129.44	9.91
	葵が丘	13.21	14.90	35.56	31.53	22.63	10.83	127.74	9.51
4年	浜松市	14.39	17.56	35.65	38.05	34.86	9.97	139.51	11.94
	全国	13.99	17.97	34.99	38.68	38.64	9.85	141.10	12.32
	葵が丘	16.35	13.93	30.67	37.10	26.68	10.47	132.19	10.81
5年	浜松市	17.02	19.30	38.84	42.07	43.88	9.58	148.91	14.25
	全国	16.36	19.39	37.95	42.00	45.58	9.50	148.01	14.74
	葵が丘	18.45	17.14	36.14	39.48	33.39	9.66	137.97	11.76
6年	浜松市	19.91	20.26	42.49	43.50	48.11	9.22	156.93	15.91
	全国	19.37	21.10	40.71	44.63	51.19	9.12	158.54	16.80
	葵が丘	21.04	20.79	42.68	40.96	43.61	9.26	150.00	14.11

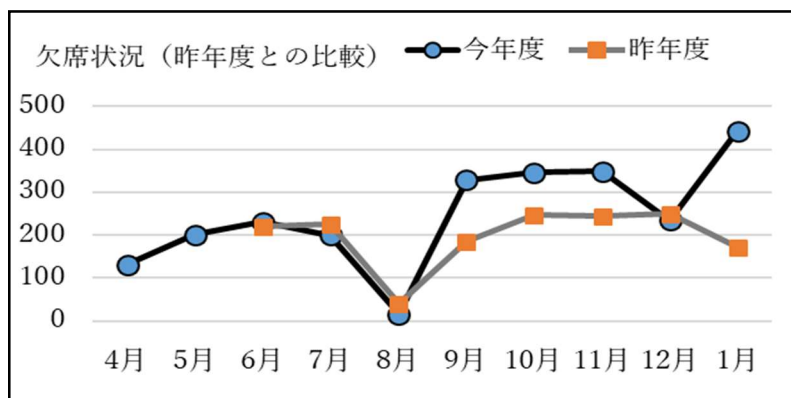
通常どおり実施できた令和元年度の記録と比較すると大きく下回る種目が多い。運動する機会の減少により、持久力が著しく低下している。投力については、全ての学年で全国平均を下回っているものの、数年の経過を見ていくと改善の傾向にある。

握力については、どの学年も全国平均を上待っているが、筋持久力については、下回る学年が多

い。敏捷性についても、どの学年でも全国平均を下回っている。

○子供たちの健康の様子

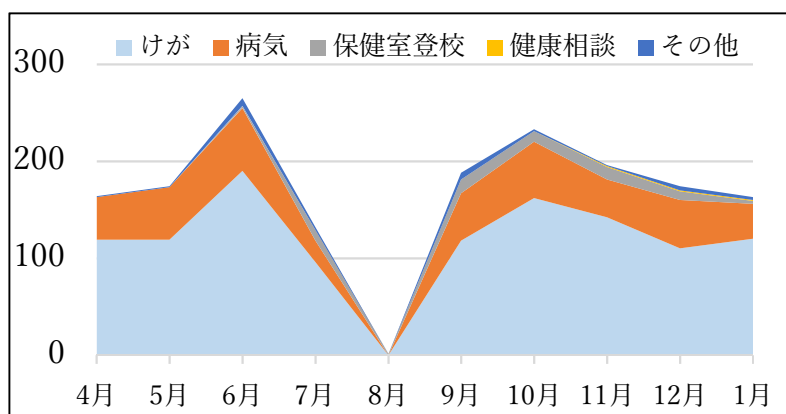
1 欠席状況 *病欠・事故欠・出席停止を含む。



昨年度と比較すると、欠席者数が増えている。新型コロナウイルス感染症対応による出席停止が大きな増加の原因となっている。(本人のり患は多くはない)

30日以上の長期欠席者(出席停止含む)は、1月末までで昨年度は11人、今年度は17人である。また、遅刻者も固定化されてきている。担任からも働きかけたり、家庭に協力を願ったりし

2 保健室利用状況 *1つのけが・病気での再来室は数に含めない。



1月末までで、1人平均約5回の利用だった。しかし20回以上の来室者が9人いる。頻回来室者の中には、1日に3回以上来室する児童もいる。頻回来室者については、担任や生徒指導主任と連絡を取り合いながら、身体面以外にも心理面も含めた背景を探り、保護者の協力を得ながらアプローチしている。

3 校内(校外)事故件数

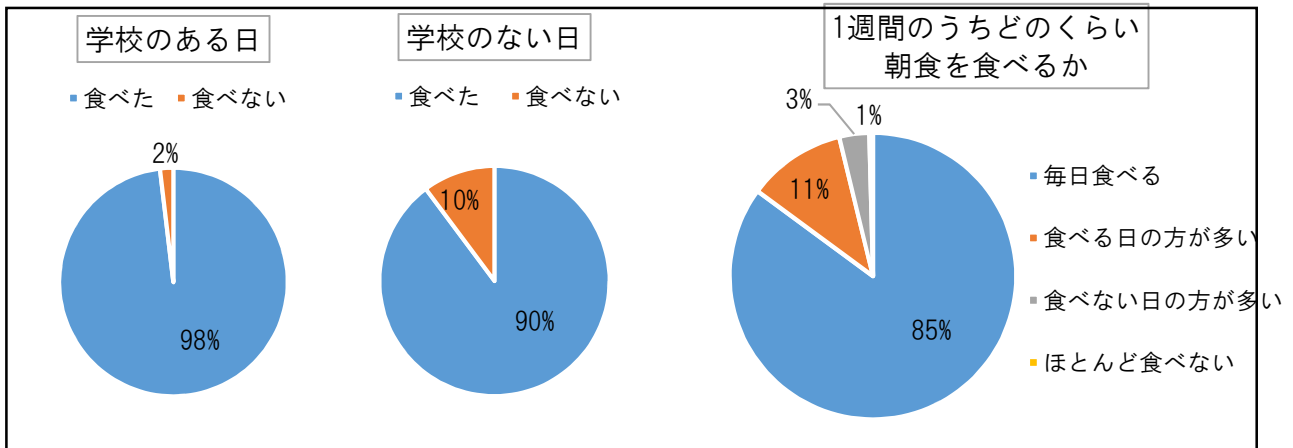
病院にかかったけがは1月末現在で26件である。(昨年度40件)部位別には頭部・目・歯・指が多く、けがの種類別では打撲・挫傷が多い。昨年度に比べると、病院にかかるけがは大幅に減少した。運動場の遊び方のルールの見直しもその一因と考えられる。しかし、病院にかかるほどではなくても、けがによる保健室利用は1月末までで1176件と、減ってはいない。小さなけがが大きなけがにつながらないように、今後も安全な生活を送るための指導を継続したい。

4 疾病治療率

健康診断の結果からの治療勧告で、1月末現在、治療率は76.0%である。昨年度末の治療率とほぼ横ばいである。年度中に4回の勧告を行っているが、新型コロナウイルス感染症感染拡大による受診控えもあるため、思うように治療率が伸びない。また、毎年痛みが悪化しなければ受診しない家庭も多い。こうした家庭への働きかけには困難さを感じるが、スクールソーシャルワーカーの協力も仰ぎながら、治療の必要性を丁寧に伝えていきたい。

○ 食育（朝食調べ）

1 朝食摂取状況調査



昨年と比べて朝食を食べている人の数値は上昇している。しかし、1週間のうち、毎日朝食を食べていない人が全体の約15%いる。学校のない日でも朝食を食べられるよう家庭の協力を得ながら指導したい。

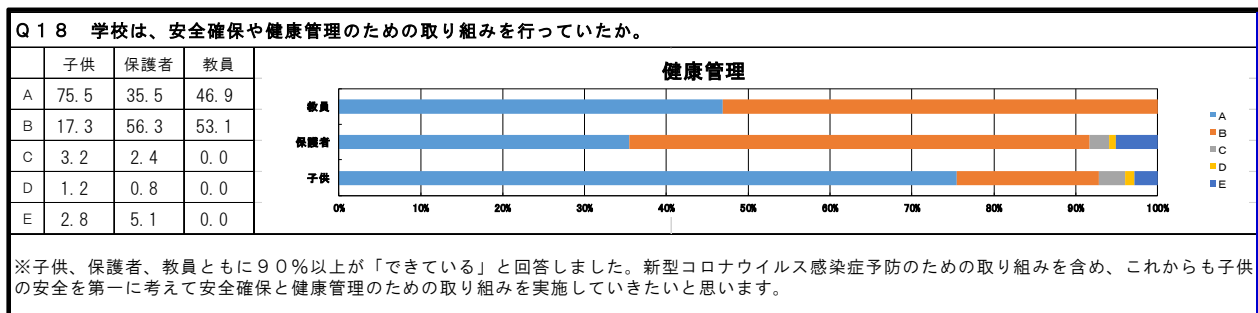
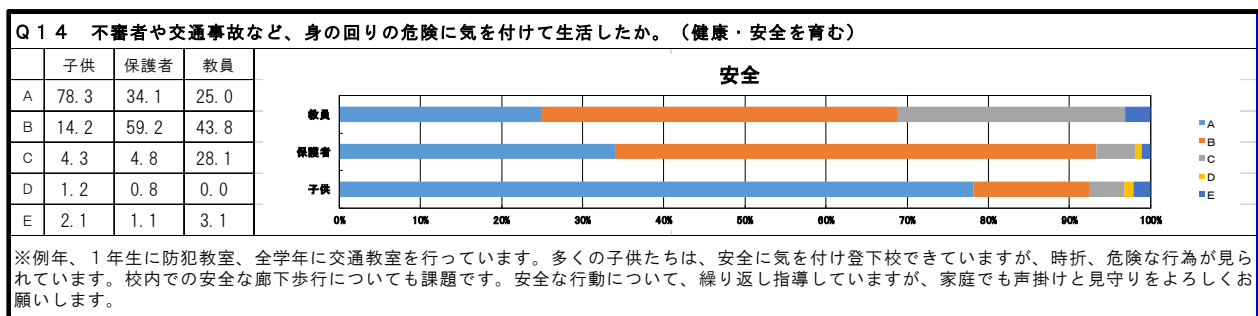
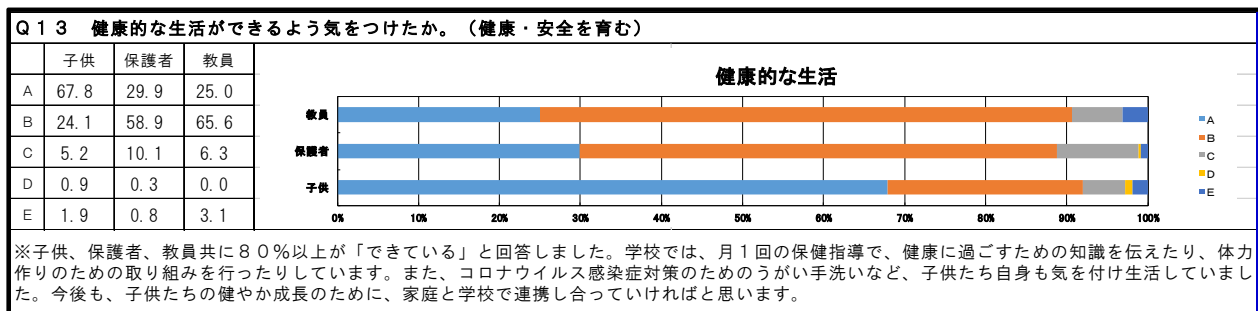
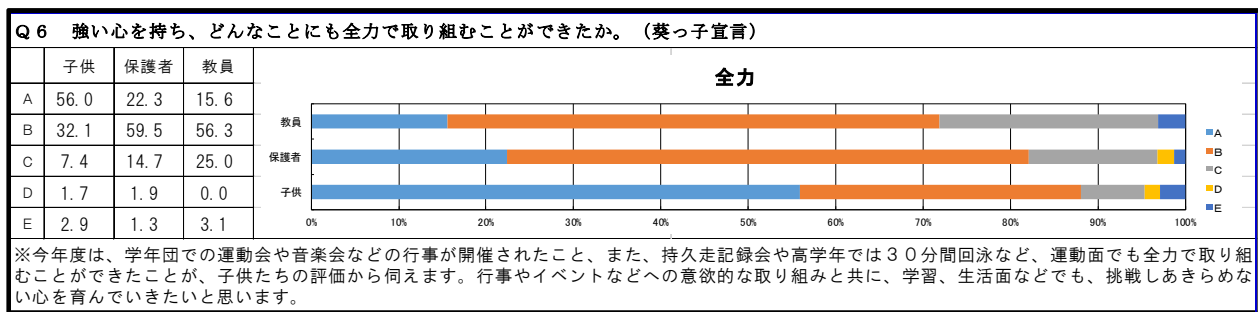
2 朝ごはん食べていますかアンケート（5年生対象）

① 1週間に何日、朝ごはんを食べたか				
	1期		2期	
5日	52人	96.2%	53人	98.1%
4日	2人	3.8%	0人	0%
3日	0人	0%	1人	1.9%
2日	0人	0%	0人	0%
1日	0人	0%	0人	0%
0日	0人	0%	0人	0%

② 3色の食品を食べた日が何日あったか				
	1期		2期	
5日	16人	30.1%	19人	35.9%
4日	6人	11.4%	9人	17.0%
3日	4人	7.6%	5人	9.5%
2日	7人	13.3%	7人	13.2%
1日	11人	20.7%	8人	15.0%
0日	9人	16.9%	5人	9.4%

1期（1/17～21）と2期（1/31～2/4）でアンケートを実施。1期と比べて2期では1週間のうち5日間朝食を食べる人が増え、朝食の内容も改善されている。児童・保護者のコメントからも、朝食について見直すきっかけとなったことがうかがえる。

○ 学校評価アンケートから



<気になる項目>

Q 14の安全に関するアンケートについては、子供たちと教員の回答結果に認識の違いが見られた。子供たちは、気を付けて生活をしていると考えていても、教員の立場から見ると安全な行動ができていないと判断される場面が多い現状である。

3 来年度の取り組み

新型コロナウイルス禍の本年度は、刻一刻と変化する状況や子供たちの健康・安全を最優先して、様々な工夫をしながら、心身の健やかな成長を目指し教育活動を行ってきた。「ウィズコロナ」を念頭に置いた取り組みをすることで、運動会や持久走記録測定、体力アップフェスタ等の体育的行事や体育活動では、これまで以上の成果を残した活動もあった。

コロナ禍での自粛生活による体力の低下や外遊びをする子供の減少、教室内でのけがの増加、食べる子供と食べない子供の二極化がさらに進んでしまった。「体」健康・安全を育む部会としては、「体力の向上」を軸として、心身の健康の保持増進に努めていきたい。

来年度は、体育科授業の工夫、体育的行事や体育活動の充実、休み時間の外遊びの奨励や運動環境を整備することを通して、運動する機会を増やし、体力を高めていきたい。また、保健指導を通して校内でのけがの減少を目指すとともに、食育指導も充実させながら食の二極化の問題も改善していきたい。さらに、子供たちの安全意識を高め、場面に応じて自らの判断で正しく行動できよう安全指導を心掛けていきたい。

○ 運動能力を高めるための取り組み

運動する機会が減り、けがが多くなってしまった。そこで体育科実技研修会を定期的に行い、主運動につながる準備運動や感覚づくり・動きづくりを紹介し、授業の中に取り入れていく。また、年間を通して、外遊び・運動ができる環境の整備したり、運動委員会主催による遊びイベントの設定したりすることで、運動する機会を確保していく。

○ 保健指導

今年度に引き続き、毎月1回朝読書の時間に、テーマに合わせたプレゼン資料を使って各教室で担任がミニ保健指導を行う。

○ 食育指導

例年通りできなくなったことも多いが、今年度の取組や反省をもとに、引き続き状況に応じてできることを工夫しながら行っていきたい。

○ 安全指導

今年度の取組を継続し、安全に努めるようにする。また、子供たちの危機意識を高め、言われたから行うのではなく、どんな場面でも自ら安全に過ごすための行動の判断が正しくできるようにしていきたい。さらに、学校の生活環境を整備することで、子供たちが自然と安全に配慮できるような状況をつくっていきたい。

■学校関係者評価

・幼稚園でも砂場のでこぼこに対応できず、骨が折れる事例がある。けがの数だけでなく、けがの内容にも目を向け、防げるものなのかどんな取り組みが必要なのかを考えていく。

・体育の授業に向けて、教員が、体の使い方や技の特性を学ぶとより安全な指導ができる。

IV 信頼される学校

1. 今年度の取り組みとその考察

(1) 情報発信

学校の教育活動を多くの人に知ってもらうために、毎月、学校便りや学年便り、給食便り、保健便りで情報を発信している。今年度は、さくら連絡網も活用し、最適な手段で情報発信ができるよう取り組んだ。また、ブログの充実にも努め、教育活動を紹介している。

クラブ紹介

2022年2月1日

6年生が、3年生にクラブ紹介を行いました。
コロナ禍の中、校内放送を利用して互いの教室での実施です。
クラブの種別や活動内容を、画像などを通じて6年生から3年生に伝えました。
3年生は、活動の様子から画像を見ながら、「こんなことやってみた。」「楽しそう。」など目を輝かせていました。
来年度の楽しみが増えましたね。
クラブ紹介は、明日も行います。



Q19 学校は、便りやホームページ、その他の方法で情報をよく発信しているか。

保護者 92.3% 教職員 100%

(2) 保護者・地域との連携

保護者に対しては、様々なたよりやホームページ、メールで、学校の教育活動が円滑に進められるように周知を図ったりお願いをしたりした。また、学校評価に関する保護者アンケートを年2回実施し、アンケートの内容についてもグランドデザインの内容と一致するように見直した。アンケート実施後は、保護者の方の意見等を集約して、参考にしながら教育活動を見直し、改善できる点はすぐに改め、成果は今後の活動に生かすようにしながら進めた。

個別には、三者面談の回数を増やし、保護者の思いを受け止め、話し合いができる時間を設けた。日常的には、必要に応じて本読みカードや連絡帳、あるいは電話により連絡を取り合ってきた。また、学校体制で取り組み、早期解決できるよう取り組んだ。

いろいろな子供たちが一緒に活動するために、地域のボランティアの方が来校し、子供たちに寄り添い支援していただいたことも、子供たちの安心感につながった。

Q17 学校は、三者面談や教育相談等が充実し、相談しやすいか。

児童 81.0% 保護者 90.7% 教職員 100.0%

(3) 安全管理

学校では、毎月1回、職員による施設の安全点検を行っている。不良箇所については修繕を進めているが、校舎が古く、対応には苦慮していることも多い。

今年度は、感染症予防対策として全蛇口をレバー式にし、手洗い後に、できるだけ蛇口に触れないようにした。また、学校生活そのものを見直し、感染症対策のための密閉、密集、密接の回避、けがをしないため休み時間の遊び場所の区割り等、様々な工夫をした。

校区内では不審者情報もあった。学校では、児童への指導を行うとともに、メールによる迅速な情報提供を行うように努めた。

Q18 学校は、安全確保や健康管理のための取り組みを行っているか。

児童 92.8% 保護者 91.1% 教職員 100%

考察

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の予防対策を取りながら、児童が安全に、充実した学校生活を送ることができるように考えた。また、行事については、感染症対策をしながらできる形を考え、保護者の方に子供たちの頑張りを見ていただけるように実施することができた。学校での取り組みについては、理解を得られたところが大きいと感じた。

情報発信の点では、日頃の学校の教育活動を伝えることができた。しかし、ブログを閲覧している人はまだまだ限られているので、他の発信方法の充実を図る必要がある。

お便りについては、保護者の声を聞き、紙面で出した方が扱いやすいものは紙面で出すようにした。必要な情報が活用されるようにしていくことが大切だと感じている。

本年度は、三者面談を大切にし、担任と保護者の間で連絡を取り合い、共に児童を育てられるような体制で臨むことができた。学校体制で臨めたことで、早期解決につながり、全職員で子供たちを見守ることができたと感じ、保護者、地域とのつながりを大切にしていける必要を感じる。

2 来年度の取り組みと改善点

来年度もブログや学校便りの充実に努めていくとともに、一人一人に配布されているアカウントを使って今後配備される情報機器を活用して情報を提供していく。

学校評価に関する保護者アンケートは、今年度同様、さくら連絡網を使って行い、アンケートに答えやすい環境作りを整え、保護者や地域の方の意見等を把握し、教育活動をよりよいものとしていけるようにする。

保護者や地域人材との連携を今後も深め、教育活動、教育環境の充実に努める。

■学校関係者評価

- ・保護者、地域とつながりをもち、子供たちを育てていけるとよい。
- ・全体を通して、「粘り強さ」が子供たちに芽生えていくとよいと感じた。社会に出たら必ず必要な力である。
- ・時代、環境は変わってきているが、変わってはいけないもの、変わらないものもある。そのようなものを、大切に、子供たちに伝えていけるとよい。